【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	富山県

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	新湊市立放生津小学校								
学　年	１年	２年	３年	４年	５年	６年	特殊学級	計	教員数
学級数	２	１	２	１	１	２	１	１０	１５
児童数	５８	３７	４７	３８	３８	４５	５	２６８	

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

「かかわる力」を育てる学習　――― 算数科の学習を中心として ―――

２．研究内容と方法

(1)　実施学年・教科

１年生～６年生までの全学年　　算数

（昨年度の研究成果と子供の実態調査の結果から、今年度も引き続き取り組み指導の充実・深化を図る。）

(2)　年次ごとの計画

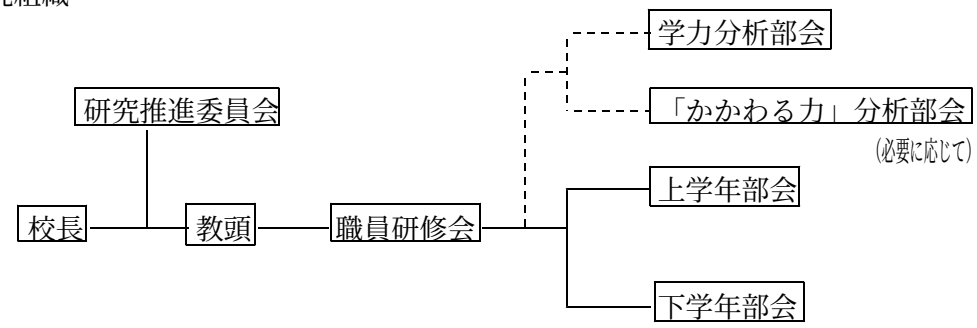
平成１４年度	○テーマ 算数科を中心とした「かかわる力」の育成 ○仮説 豊かな算数的活動を重視し、個に応じた指導体制を工夫することで、算数科の基礎・基本を身に付けることができる。 ○研究内容・方法 ・個に応じた少人数指導・習熟度別学習の工夫 ・評価を生かし、子供が主体的に学ぶ学習過程の工夫

平成１５年度	○テーマ 算数科を中心とした「かかわる力」の育成 ○仮説 個に応じた補充的・発展的な学習や指導体制の改善をすることで、算数科における追究を楽しむことができる。 ○研究内容・方法 ・補充的・発展的な学習の教材開発 ・少人数指導・習熟度別学習の改善 ・基礎・基本の定着を図る指導体制の整備

平成16年度	○テーマ 算数科を中心とした「かかわる力」の育成 ○仮説 総合的な学習の時間等との関連を図り、算数科の学習で獲得したことを活用する場を作ることで、子供の学ぶ意欲を高めることができる。 ○研究の内容・方法 ・算数科と他教科・領域・総合的な学習の時間等とのかかわり ・評価を生かした少人数指導・習熟度別学習の改善 ・学力向上に関するデータの分析とまとめ

(3)　研究推進体制

・研究組織



・地域との連携

放生津校区社会福祉協議会主催による「サタデー算数教室」「数楽少年探検隊」

Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

１．研究の成果

○　算数科「学力調査」(４月実施)の平均点　　(昨年度との比較)

３年生	７８．６	→	８２．０	＋３．４
４年生	７２．０	→	６９．３	－２．７
５年生	７４．１	→	６７．１	－７．０
６年生	７３．５	→	７７．４	＋３．９

４・５年生の支援の必要な子供には、放課後に補充の時間を設定し指導の徹底を図った。

平均点が上がっている学年と、下がっている学年が顕著である。問題の難易度や子供が違っているので単純に比較できないが、朝の算数パワーアップタイムの取り組みの成果もあり「表現・処理」はおおむねどの学年も伸びている。

○　アンケート結果　　(昨年度との比較)

勉強の内容がよくわかる	５２％	→	６６％
少人数学習は合っている	４２％	→	４８％
算数が好きになってきている	４４％	→	５３％

少人数指導を行うことで１コースの人数が少ないので、一人一人に目が行き届いたり理解度に応じた学習が進めたりできるので学習が分かるようになったと感じている子供が増えたと思われる。「分かるようになった」という気持ちが、「算数が好きになった」ということにつながるのではないかと推察される。チャレンジプリント（自校作成）を自主的に持ち帰り、家庭でやってくる子供が４５％から５８％に増　加していることが裏付けていると言える。

○　個に応じた指導のための教材開発

・２年「１００より大きい数をしらべよう」…　ビーズのつかみ取り、１０円ショップでの買い物ゲーム、数比べゲーム

・４年「わり算のしかたを考えよう」…　学級活動と結び付いた「フレンド」の教材、わり算の具体的な操作活動

○　個に応じた指導のための指導方法、指導体制の工夫

算数科における指導方法について、子供の実態や学習内容等に応じ、ＴＴや少人数指導を行い、基礎・基本が身に付くように工夫した。さらに発展的な内容も取り入れた。

・６年「比べ方を考えよう」…　習熟度別３コースに分かれ、それぞれの習熟度に応じ学習問題や進め方で学習。コースによって発展的な内容を取り入れ、力を伸ばすようにした。

・３年「長方形と正方形」…　基礎・基本的な学習内容については、ＴＴで指導し、発展的学習では課題別学習を実施。

○　学力の評価を生かした指導の改善

・　評価規準を設定し、学習のどの場面でどんな方法で学習の到達を見取っていくか評価計画を立てる。その計画に基づいて補助簿に記録し、次の学習に生かすように努めた。

・　授業の終わりに「振り返りカード」や「算数日記」を書き、自己評価できるようにしている。子供の学習に対する理解度や満足度をとらえ、次の学習に生かすようにした。

2．今後の課題

・　少人数指導を行うには、的確な目的・ねらいを明確にしなければならない。どういうときにどんな指導形態が有効であるのか、さらに事例を積み上げていく必要がある。

・　少人数指導を行うとき、各コースにはそれぞれの子供の実態に合った教材を準備しなければならない。そのために教材に対する深い研究が必要である。

・　子供へのアンケートや学力テスト等を実施し、より多面的な実態把握に努める必要がある。子供のつまずきの分析を行い、それをふまえた指導計画や指導過程を工夫する。

・　さらに学力を向上させるには、算数科での取組みから総合的な学習の時間等との関連を図る必要がある。

Ⅳ　学力等把握のための学校としての取組み

・　富山県小学校教育課程研究会作成「学力調査」（４月実施）「学期のまとめ」（１学期・２学期・３学期実施）の結果分析

・　子供や保護者の意識調査

・　評価規準を基にした学習プリントの活用

・　指導内容に即した１年～６年までのパワーアッププリントの活用

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

・研究会、説明会等の開催実績

研究会　　日時：平成１５年６月９日（月）
　　研究授業　　４学年「わり算のしかたを考えよう」
　　講師　　筑波大学教育学部助教授　　清水　静海先生

説明会　　日時：平成１５年１０月４日（土）
　　テーマ　　フロンティアスクール説明会及び算数科の学習参観
　　対象　　保護者、地域住民

公開授業　　日時：平成１５年１１月２１日（金）
　　テーマ　　「かかわる力」を育てる学習
　　――― 算数科の学習を中心として ―――
　　対象　　保護者、地域住民、市内小中学校教員

・ＨＰ作成等の工夫の実績及び今後の予定

昨年度よりホームページを開き、随時更新している。

・研究実践を「研究のあゆみ」に載せて、市内の小中学校等に配布する。

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　　１５年度からの新規校　　√１４年度からの継続校

【学校規模】　　６学級以下　　√７～１２学級
　　１３～１８学級　　１９～２４学級
　　２５学級以上

【指導体制】　　√少人数指導　　√Ｔ．Ｔによる指導
　　一部教科担任制　　その他

【研究教科】　　国語　　社会　　√算数　　理科
　　生活　　音楽　　図画工作　　家庭
　　体育　　その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　　√有　　無